

参考事例4

< 事例概要 >

- ① 50 歳代、腰痛のため救急外来を受診した患者。
- ② 原因検索目的の検査。D-dimer のパニック値の設定有。
- ③ 救急外来でCT検査の結果、腰椎圧迫骨折と診断され入院した。医師は、救急外来で採血したD-dimer 44 $\mu\text{g/ml}$ の検査結果を確認しなかった。院内にパニック値を報告する体制はあったが、医師に報告したか否かは不明。翌日の採血でCKが高値のため循環器内科を受診したが、循環器内科医もD-dimer の検査結果を確認しなかった。症状が軽快したため退院したが、同日夜に突然意識が消失し、救急搬送された。
- ④ 急変より約 1 時間半後（パニック値検出より2 日後）に死亡。
- ⑤ 死因は、Stanford A 型急性大動脈解離。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。